

## 知事との県民対話集会（原村）概要

- ・開催日時 令和4年10月19日（水） 午後5時から午後6時30分まで
- ・会場 原村役場 講堂
- ・参加者 県民29名、五味原村長、阿部知事、宮原諏訪地域振興局長 他
- ・テーマ 農業振興について（物価・燃料高騰対策、病害虫対策、ワイン産地化など）

### ・主な発言（要旨）

#### 【参加者】

- ・燃料、肥料、農薬などの価格高騰により今後の生産者の減少を懸念。県に対策を願う。
- ・燃料高騰でランニングコスト厳しい状況。花は野菜と違い、生活必需品ではなく嗜好品。単価が上がれば客も減る。設備投資やメンテナンス面での支援をお願いしたい。

#### 【知事】

- ・県の誇る花き産業をどうやって振興するか重要な課題。暮らしのゆとり、花に親しめるライフスタイルとセットで、皆さんと考えていきたい。
- ・海外では購買力が上がっている。アフターコロナを見据え、どういうターゲットで攻めるか県全体として考えることが必要。

#### 【参加者】

- ・外国人技能実習生や特定技能労働者の存在抜きでは生産は考えられない。制度改正にあたっては、受入企業・生産者・労働者の意見を踏まえて国へ働きかけていただきたい。
- ・国に対して意見を言える場を作っていただきたい。

#### 【知事】

- ・人材確保は農業に限らず重要な問題。外国人に良い環境で働いてもらうためにはどうすればいいか、本人たちの声を取り入れる機会をつくりたい。
- ・国に対して意見を言える場は、まずは県で受け止め、作戦を立てた方がいい。

#### 【参加者】

- ・県のワインバレー構想に八ヶ岳西麓エリアの地域指定をお願いしたい。
- ・諏訪地域独自の新規就農者向けワイン用ぶどう栽培技術マニュアルを今後2年程度で作成願いたい。

#### 【知事】

- ・名称は私が決めることではないが違和感はない。強く主張してはどうか。
- ・栽培マニュアルについては、ご意見のあった北海道の事例を参考に検討する。

#### 【参加者】

- ・首都圏での就農相談や移住促進の相談活動の際、ワインぶどうの栽培で人を呼び込む策を村と一緒にやっていただきたい。
- ・長野県に住みたいという若者が集まるよう積極的な魅力発信をお願いしたい。
- ・ワインと縄文を組み合わせたイベントでブランド化を推進したい。
- ・元気づくり支援金とは別に、産地化を目指す地域の応援をお願いしたい。

#### 【知事】

- ・人の呼び込みは県全体の課題。住まいなど地域でも受入体制をつくるのが大事。
- ・銀座NAGANOやふるさと回帰センターなどでの情報発信はこれからもしっかりやっていくので協力を。

**【参加者】**

- ・水田等の圃場整備が完了している圃場でもワイン用のぶどう畑として再整備いただきたい。
- ・ワイン特区になったことを契機に、基盤整備について検討いただきたい。

**【中村農地整備課長】**

- ・再整備は国の補助金を活用して可能。事業化について村と検討していきたい。

**【参加者】**

- ・果樹経営支援対策事業でワイン用ぶどうが対象となるようお願いしたい。

**【松崎農業農村支援センター所長】**

- ・農協と協調してワイン用ブドウが振興作物となるようお願いしていくほか、県単や国の補助制度が活用できないか提案できるように努めたい。

**【知事】**

- ・農協には長野県ワインバレー構想推進を勧奨いただき、振興作物の品目選定をお願いしたい。

**【参加者】**

- ・スマート農業導入に対する支援をお願いしたい。

**【知事】**

- ・高品質の作物づくり、人手確保などスマート農業を進めることは必要。DXはいろいろな分野で進めていく。様々な制度を作るので活用してほしい。

**【参加者】**

- ・鳥獣害対策について、サルの生息区域拡大により広域的に取り組む必要がある。指示・実行できる機動的な新組織を作ってほしい。
- ・被害が出る前に対策を講じてほしい。県境は権限が曖昧で対策がしづらい。

**【知事】**

- ・県境をまたいだ対策は、県議会からも同様の要望が出ている。

**【参加者】**

- ・子育て世代のお母さんなど手の空いた時に仕事ができるワークシェアの仕組みを地域で作ることができれば理想的。

**【知事】**

- ・ニーズに合った働き方の場づくりは大切。
- ・塩尻や立科で取り組まれているような女性が活躍しやすい仕組みを検討して広げたい。
- ・特定地域づくり事業協同組合制度の活用を村でも検討願いたい。

**【参加者】**

- ・国の水田活用直接支払い交付金の制度改正について、見直し内容が離農や遊休農地化を助長することがないように県の支援をお願いしたい。
- ・人農地プランの実質化及び策定支援について、円滑な目標策定ができるよう県の支援をお願いしたい。
- ・担い手確保について、農業希望者などが移住しやすい補助制度創設や農業大学校、農業農村支援センターを活用した教育等をお願いしたい。
- ・セルリーの生産者が減少する一途を辿る状況下であり、他の農畜産物も減少傾向にならないよう県から再度アピールいただきたい。
- ・新規就農者へのトラクターや農機具などハード面での支援をお願いしたい。

**【参加者】**

- ・温暖化や豪雨災害、セルリー疫病等により品質の良いセルリーを作るのが難しくなっている。早急な農薬の認可に県の支援をお願いしたい。
- ・新たな病害虫が発生すると予防や防除が確立される前に農家をやめる人もいるので早めの対応・対策をお願いしたい。

**【松崎農業農村支援センター所長】**

- ・農薬は、最速で令和7年から使用できる方向だが、引き続き登録までの期間短縮を要望していく。

**【参加者】**

- ・降水、凍結等の異常気象により、水路破損箇所が見受けられる。多面的機能支払交付金の他、大規模改修が可能な事業の検討をお願いしたい。
- ・温暖化で大雪、豪雨など異常気象による被害が出ており、風水害対策について検討いただきたい。
- ・異常気象による産地の移動で転換作物として果樹栽培の検討を始めている。原村にある県の農業試験地を活用して試験栽培していただくなど国・県の支援をお願いしたい。

**【知事】**

- ・温暖化の中でどうやって農業を産業として成り立たせるか、品種改良や中長期的な転換作物について本格的に考える必要がある。
- ・気候変動を考慮して食糧安全保障を考えてほしいと国に要請していく。

**【参加者】**

- ・農畜産物が適正な価格となるようJAと県がタッグを組みアピールしていただきたい。
- ・温暖化で高原野菜の栽培が厳しくなりつつある。米価も非常に安く作付けが減ることが危惧される。対策の検討をお願いしたい。

**【知事】**

- ・適正な価格でものを流通させ適正な価格で買えるようにしていくことは重要。